基地防空用地対空誘導弾(改)及び新近距離地対空誘導弾

敵の巡航ミサイルによる我が国への同時多数攻撃に有効に対処するため、既存の基地防空用地対空誘導弾の改善型として基地防空用地対空誘導弾(改)を開発する。また、 島嶼等防衛における各種経空脅威を撃墜するとともに、本土における重要防護施設に飛来する各種経空脅威を撃墜し、自ら機動性を発揮して部隊等に直接対空火網を構成して 部隊等の安全を確保するため、93式近距離地対空誘導弾の後継として、低高度で飛来する巡航ミサイルへの対処能力を持った新近距離地対空誘導弾を開発する。

現状・課題

我が国に対する従来の巡航ミサイル(以下「CM」という。)及び航空機による攻撃の他、周辺国の軍備拡張に伴う量的優位を利用したCMによる同時多数 攻撃の可能性があるが、現有基地防空用地対空誘導弾では、これらの脅威に対し有効に対処できない。また、現有の93式近距離地対空誘導弾では、戦 闘爆撃機、攻撃ヘリコプターや大型の無人機等には対応可能であるものの、中型無人機、超低空CMなどの昨今の多様な経空脅威には有効に対処できない。

インプット (資源) 総事業費 (予定)

約54億円※ (5か年計画) ※試験のための試験研 究費は別途計上

現有装備品 (基地防空用 地対空誘導弾)



アクティビティ (活動)

アウトプット (活動日標)

┍

初期アウトカム

アウトカム(成果目標)

中期・長期アウトカム

インパクト (社会的な影響)

開発

技術的課題の解明 小型·低熱源目標抽出技術

誘導弾及び目標の双方が動 的な環境下において、複雑背 景下から小型・低熱源目標を シーカで抽出するための画像 処理技術の確立

既存装備品及び その開発成果等の活用

- ・ 既存装備品の改修によるとと もに既存装備品の開発成 果を最大限活用
- 民生品の活用

各種シミュレーションの活用

設計、試験に各種シミフレーショ ンを活用

ファミリー化・共通化の追求

基地防空用地対空誘導弾 (改)と新近距離地対空誘導 弾のファミリー化・共通化を追

開発試作

基地防空用地対空 誘導弾(改)



新近距離地対空誘 導弾



種経空脅威への対処能 力が向上

開発経費等の削減

同時多数攻擊対処

能力等の向上

同時多数攻撃を含む各

現有装備品の開発成果 等を活用してファミリー化・ 共通化を追求することによ り開発経費を削減するとと もに、ファミリー化・共通化 により量産単価及び維持 経費を削減し、ライフサイ クルコストを抑制

開発期間の短縮

既存装備品における開発 成果及び各種シミュレー ションを最大限活用するこ とにより技術試験及び実 用試験を同時に実施し、 開発期間を短縮

中期アウトカム

本事業成果により、我が国 に対する量的優位を利用し たCMによる同時多数攻撃 等に対し、有効に対処できる → ようになるとともに、数的な対 🛶 処能力の不足及び費用賦 課を克服できる。また、CMを 含む各種経空脅威を撃墜 するために自ら機動性を発 揮して部隊等を効果的に防 護することが可能となる。

【政策目標(大綱との関係)】 【施策目標(中期防との関係)】 ・従来の領域における能力の強化(総 合ミサイル防空能力)

巡航ミサイル、航空機等の多様化・複 雑化する経空脅威に対し、最適な手段 による効果的・効率的な対処を行い、被 害を局限

・装備体系の見直し

装備品のファミリー化、装備品の仕様 の最適化・共通化、各自衛隊が共通し て保有する装備品の共同調達等を実施 装備調達の最適化

装備品の効率的な調達に資する計画 的な取得方法の活用や維持整備の効 率化を推進

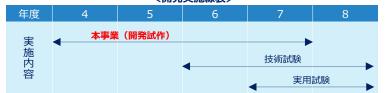
【防衛技術戦略】

防衛力構築の基盤を着実に担う研究

【防衛牛産・技術基盤戦略】

- ・誘導武器の国内開発を継続できる 基盤の維持・強化
- ・レーダー技術等の防衛需要ベースの技 術の技術基盤の維持・強化

<開発実施線表>



総合評価

本事業を実施することにより、誘導弾が予想命中点に飛しょうする環境下において、複雑背景下から小型・低熱源目標 を抽出するための画像処理技術の確立が見込まれる。これらの成果については、試作及び技術試験により検証し、これ らの検証結果が得られた場合には、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。これらは自衛隊のニーズに合致 した高度な防衛装備品を創製するため重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化に つながるものであることから、本事業に着手することは妥当であると判断する。